

2, 防除柵を設置する前に（集落環境点検）

2, 防除柵を設置する前に 集落環境点検

2, 防除柵を設置する前に (集落環境点検)

2, 防除柵を設置する前に

先述のとおり、防除柵の設置・管理は獣害対策の中で大きな位置づけにあるが、防除柵のみで獣害を防ぎきることはできない。

また、同じ防除柵を設置しても、事前準備や他の獣害対策に不備があれば、防除柵の効果は期待どおりに発揮されないことがある。

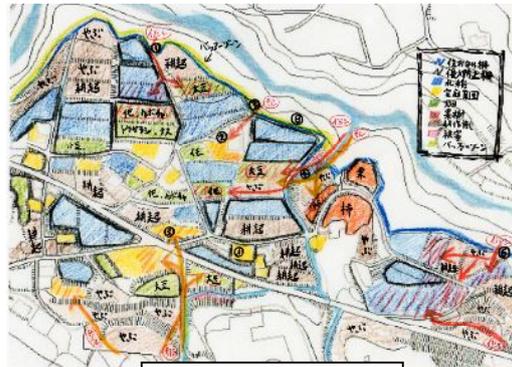
防除柵の効果をもっと発揮するためには、地域の現状を把握し、地域で共有して、対策を実行していくことが不可欠である。

◆集落環境点検 (詳しくは、集落環境点検マニュアルを参照)

効果的な獣害対策を検討するには、地域の現状図と対策地図を作成することで、地域の現状と必要な対策を整理・共有し実践していくことが重要である。

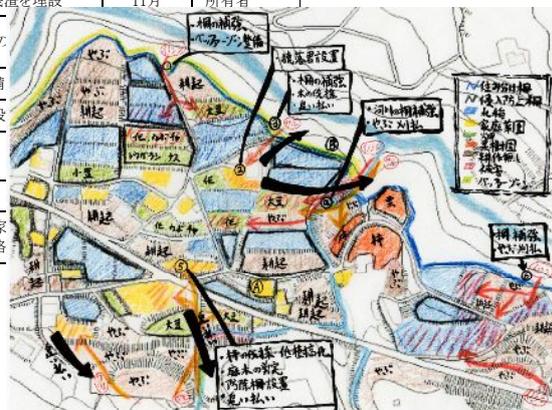
集落環境点検でのチェックポイントは下記 6 点である。

- 主なチェックポイント
- ① 作物以外の誘引源の状況
 - ② 作物の作付け状況
 - ③ 被害状況・侵入経路
 - ④ 防除柵の設置・管理状況
 - ⑤ 周辺環境の整備・管理状況
 - ⑥ 地域にすでに存在する対策に活かせるノウハウ



点検地図 (例)

対策の区分	番号	現状・課題	対策	実施時期	体制・対象
相手を知る		サルが人に慣すぎている	サルについて勉強会の実施	8月	地区全世帯
自分を知る		被害状況、対策の効果がわからない	集落環境点検	3月、6月 8月、11月	地区全世帯
		どんな追い払い道具を誰が持っているかわからない	アンケートなど	3月	地区全世帯
顔付けをしない	②⑤	柿、野菜残渣が食べられている	柿の早期収穫、残渣を埋設	11月	所有者
まもる	③⑥	バッファゾーン管理が不十分ところがある	バッファゾーンの		
	④	河川から侵入してくる	河川のヤブの整備		
	④	河川から侵入してくる	河川に防除柵を設		
	①⑥	柵を破って侵入	柵の補強		
	②⑤	柵が無い	柵の設置		
攻める	②⑤	侵入時に追い払いできていない	ロケット花火を各家 追い払い時の連絡		



実施計画図と、実施計画 (例)

2, 防除柵を設置する前に (集落環境点検)

◆誘引源の除去

食べられても困らないものでも、野生動物にとっては貴重な食糧源であり、無意識に集落や農地に定着させる大きな要因になる。



生ゴミ



- ・ 鋤込むか埋設する
- ・ 防除柵の内側に捨てる
(覆いをかぶせて目隠しできると良い)



収穫予定の無い果樹



利用されている柿



低樹高化した柿



- ・ 管理できない場合、伐採も検討する
- ・ 管理・収穫できる高さに剪定する
- ・ 早期に摘果する
- ・ トタンを巻いて登りにくくする



被害にあった作物



- ・ 鋤込むか埋設する
- ・ 防除柵の内側に捨てる
(覆いをかぶせて目隠しできると良い)



収穫残渣 (ひこばえ、葉もの野菜の外葉)



- ・ 防除柵を撤収する前に鋤込む

2, 防除柵を設置する前に (集落環境点検)

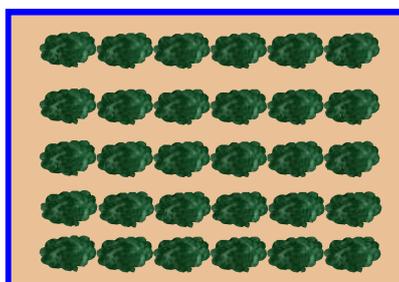
◆作物と防除柵の配置

無計画に農地を防除柵で囲うと、作業性が低下する場合がある。
また、防除柵や作物の配置によっても、防除のしやすさが変わる。

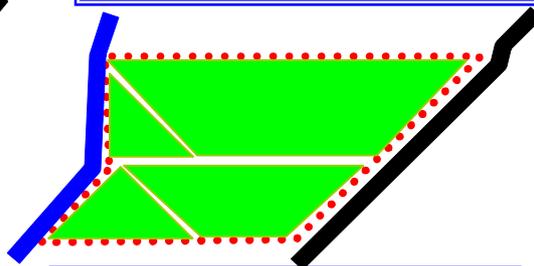
●柵からはみ出した作物



- ・柵からはみ出した作物を食害した獣は、柵の中の作物にも執着するようになる
- ・稲穂が垂れると電気柵は漏電する



- ・作付け面積を減らして、柵からはみ出ないようにする。
(苗、収穫物、薬剤等を一輪車などで運搬でき、作業性は上がる)



- ・共同で団地単位で設置する
(1人当たりの設置費用や管理延長が軽減されるが、管理しない人がいると全員被害にあう)



- ・ツル性の野菜は、柵からはみ出しやすい

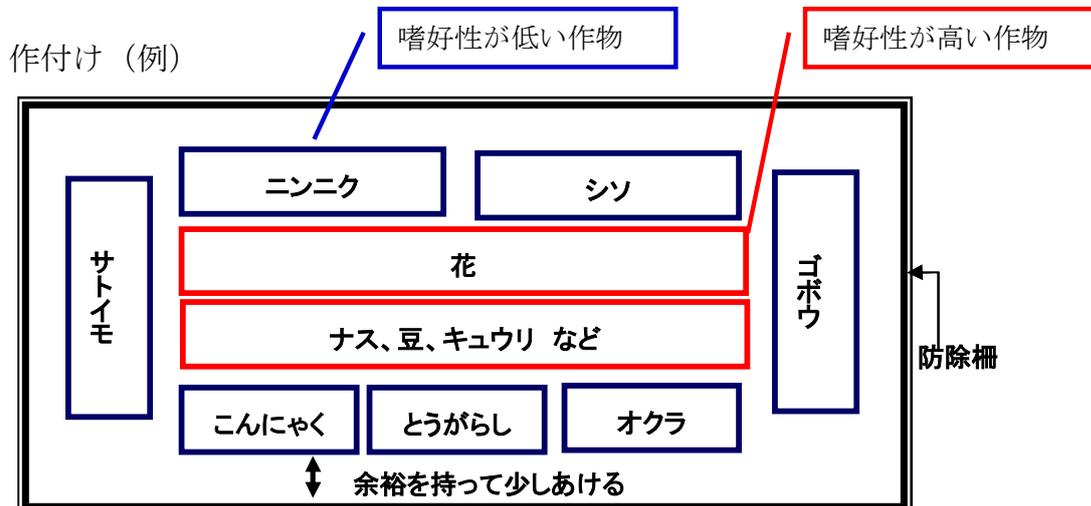


- ・柵から離して栽培する
- ・立体栽培をする
(立体栽培は、栽培面積を減らし、農地を有効に活用できる)
(ツルの誘引には手間がかかる)

2, 防除柵を設置する前に (集落環境点検)

●作付けの工夫

野生動物は、嗅覚や聴覚が鋭くても最終的には目で確認する。そのため、嗜好性の低い (地域で被害に遭っていない) 作物を、目隠しするように設置すると、防除柵の防除効果が向上する。(家庭菜園や、個別の農地では、特に重要)



●サル・クマ・アライグマ・ハクビシン対策の場合

これらの動物は、木や柵を登ることができるため、立体的な侵入を防ぐように工夫が必要である。



- ・サルやハクビシンは、電柱や電線を伝って侵入することがあるため、設置ラインの選定時に注意が必要
- ・電牧機本体から侵入されることもあるので、本体は、柵の中に設置する
- ・土手、建物、木などから飛び込まれる事があるので、柵を離して設置する (サルの場合は 5m 程度離して設置する) (クマ、アライグマ、ハクビシンの場合でも、1m 以上離して設置する)

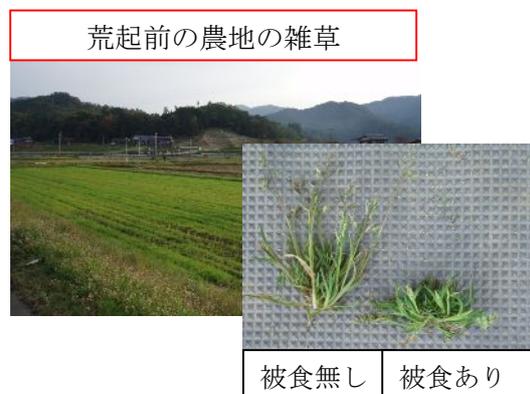
2, 防除柵を設置する前に (集落環境点検)

◆防除柵の設置・撤収時期

防除柵は、作物の被害を軽減するために設置されることが多く、栽培期間が重要視されるが、栽培期間以外にも、ひこばえ等餌になるものがあるため、被害対策の観点からは、1年を通して野生動物を農地・集落へ誘引しないように、設置・撤収時期についても注意が必要である。



- ・ハクサイやキャベツ等、葉もの野菜の外葉は、収穫量の3分の1 (約1.5t/10a) 程度発生する
- ・ひこばえは緑草量で200kg/10a程度発生し、玄米が50kg/10a採れる年もある
- ・条間の雑草、耕耘後に発生する雑草も500kg/10a以上発生することもある
→ これらは、シカ、イノシシ、サルの冬期の食糧源となる場合がある



- ・春、荒起前には緑草が生い茂り野生動物のエサ源になる事がある



- ・稲や野菜苗の植え付け後に防除柵を設置すると、防除柵設置前に被害に遭う事がある

- ・残渣は鋤込む
(稲刈り直後の耕耘は、雑草が繁茂する場合があるので、寒くなってから耕耘する)
- ・防除柵は残渣を鋤込み終えてから撤去する
- ・稲や野菜苗の植え付け前に防除柵を設置する
→ 田植え前に防除柵を設置すると、春の緑草による農地への誘引を防げる
→ 被害に遭う前に進入状況を観察でき、植え付け前に防除柵を補強できる